

〈 社会人の窓 29 〉

実体験を大切に



竹井 隆英

私は50年近く寝屋川市の小学校で教員生活を送ってきました。現在、教育現場では一人1台タブレットを使うことが普通に行われ、子どもたちが有効に活用し自由に検索を行ったりして多くの情報を収集することが出来るようになってきています。小学校の低学年でも音声認識で入力が簡単に出来るため、検索もうまく使いこなしていくようになっていきます。また、画像で記録も簡単のため、たくさんの画像を撮ってその中から適当に選んで活用をしていきます。プレゼン資料作りもコピーアンドペーストで行うことが多くなっていき、自筆で書くことが減り、理科の植物や生き物の観察なども写真で終わることが多く、じっくりと観察して考えながら書く場面が減ってきています。子どもたちは写真や動画、バーチャル空間での体験をしたことなどを「知っている、分かっている」と言うことも多く、もっと実体験を大切にしてほしいなと考えます。私が子どものころは、寝屋川は緩やかな土手の、浅いのどかに流れる川、田んぼの水路はせき止めて魚取りの出来る場所、近くのため池は冬場のフナ釣り場、淀川は父親と行く魚釣りの場、周りの山や田んぼは植物観察の場、近くの崖は地層観察、テレビ（幼少期のころは教育番組的なものが多く）を見ていても、出てきたものを実際に見たくなったり、制作したくなったりしていました。身近な経験をしながら育ってきたので、何事にも実体験が重要と考えています。

教員を始めて数年目、星空の学習で子どもたちがなんとか星空を見てくれたらと思い、自作のスライドを作り、寝屋川ではあまり見えない星に興味を持たせていきました。そんなときに保護者から天文サークルを作らないかとの話があり、その活動に子どもたちを参加させることで実際の空を見せていきました。パソコンが出だしたころで、教室に私物のものを持ち込んで授業に使って、バーチャルから実物へ興味を持たせていました。

活動メンバーが減り体力的に苦しくなってきたとき（2001年）に、寝屋川市役所から「寝屋川再生プランワ

ークショップ」の公募があり、参加してその後「ねや川水辺クラブ」の活動が始まりました。空ばかり見ている間に、寝屋川の水環境が自分が子どものころと全く違っていることにほとんど気がついていなくて、その時にこれは大変だ、子どもたちが川に触れられる場を作っていければと思い、さらに子どもたちの活動をする機会を作るだけでなく、大人たちも一緒に楽しみ、新しい発見が出来るような場を作らなければと思いました。ワークショップの結果、2005年、寝屋川本川1カ所目の公園が寝屋川市駅前にオープンし、子どもたちが遊べると思っていると、1ヶ月後、教育委員会から駅前の川で遊ばないようにとの通達が出て、遊べなくなりました。その後2009年にできた幸町親水広場は規制もなく、子どもたちの遊び場になって来ています。淀川河川公園点野地区では、ねや川水辺クラブ、摂南大学エコシビル部、淀川河川レンジャーなどの長年にわたる協働の整備の結果、2013年淀川河川公園全域の中での市民参画による水辺整備モデル地区に選定され、2020年頃から高水敷切り下げ、低水護岸の撤去、ワンド復元等が行われました。また、工事が終わった場所へチガヤ、オギ、セイタカヨシなどの植え付けを行い、今まで進めていた点野砂州や緑陰の整備と合わせて、より淀川に親しめる場になりつつあります。

最近アウトドアブームと言われていますが、大人も自然体験の経験が少ないことが多いので、点野親水空間が、大人たちが喜んで子どもを連れて体験できる場になれば良いと思っています。昔の川の風景とは違っていても、現在の川の風景が出来あがれば、次世代へ繋がっていくとおもいます。

（ねや川水辺クラブ第4代（2011～）会長）



淀川河川公園点野地区に新たに整備されたワンド

イベント報告

淀川愛好会 総会 2025

2月22日(土)11時から摂南大学寝屋川キャンパス1号館3階都市環境工学科会議室にて、淀川愛好会の総会が開催されました。会員の方々と学生を含めた8名が参加しました。総会は、新会員の学生も参加していたことから、澤井健二先生による会の生い立ちや変遷に関する話に加え、参加した会員の自己紹介も行いました。また、2024年度の事業報告と2025年度の事業計画についての話し合いが行われ、事業計画については、夏に開催するイベントに関して、近年の熱中症リスクなどを踏まえて、時期をずらして開催することが検討されました。(谷口茜)

2024 年度事業報告

日程	内容	開催場所
4月28日(日)	大川クリーン活動	大阪ふれあいの水辺
5月11日(土)	外来魚駆除釣り大会	淀川・城北ワンド
5月18日(土)	琵琶湖・淀川・大阪湾 流域圏シンポジウム	大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー
5月26日(日)	クリーンリバー寝屋川作戦	寝屋川せせらぎ公園・幸町公園
7月14日(日)	巨棕池流域見聞バスツアー	巨棕池
7月21日(日)	水辺の匠Eボート	瀬田川
9月8日(日)	淀川まるごと体験会	淀川・点野
10月14日(日・祝)	琵琶湖東岸流域見聞バスツアー	琵琶湖東岸
10月27日(日) 11月4日(月・祝)	京の川の恵みを活かすフォーラム&アユ食味会	京都大学宇治川オープンラボラトリー
11月9・10日(土・日)	天若湖アートプロジェクト	日吉ダム周辺
11月15日(金)	大和川流域治水見聞バスツアー	大和川流域
11月24日(日)	茨田イチョウまつり	淀川・点野
2025年 2月22日	総会、近畿河川フォーラム・淀川討論会、懇親会	摂南大学 寝屋川キャンパス

2025 年度事業計画

日程	内容	開催場所
4月27日(日)	淀川まるごと体験会春	淀川・点野
4月29日(火・祝)	大川クリーン活動	大阪ふれあいの水辺
6月29日(日)	琵琶湖・淀川・大阪湾 流域圏シンポジウム in 大阪	エル・おおさか
9月頃	淀川まるごと体験会	淀川・点野
11月頃	天若湖アートプロジェクト	日吉ダム周辺
11月頃	茨田イチョウまつり	淀川・点野地区
2月頃	総会、近畿河川フォーラム・淀川討論会、懇親会	摂南大学 寝屋川キャンパス

第9回 近畿河川フォーラム 兼

第27回 淀川討論会

2月22日(土)14時から摂南大学寝屋川キャンパス3号館311教室にて、第9回 近畿河川フォーラム 兼 第27回 淀川討論会が開催されました。「グリーンインフラを活かした流域治水について考える」というテーマで、約40名にご参加いただき、参加者それぞれの思いを語り合い、意見交換のためにも、参加者の皆様の交流の場としても充実したものであったと思います。

開会挨拶の後、14時5分から国土交通省近畿地方整備局河川環境課の方からは「河川協力団体全体および近畿の動き」に関して紹介を頂きました。河川協力団体制度についての説明に加え、河川協力団体の全国・近畿の指定推移、活動状況についてもご紹介いただきました。私が興味を惹かれた活動は、九州地方の活動事例で、加勢川開発研究会の『ペットボトル川下り』です。内容としては、ゴミの気持ちになって川を観察するという事でペットボトルを体に巻き付けて川を下ります。川下りをするのに舟やカヌーを使うのではなくではなく、身一つで川下りをするというのが独特で面白いなと思いました。14時30分からは「近畿における干拓地と遊水地探訪バスツアー報告」として、巨棕池、大中の湖・早崎内湖、大和川保田遊水地の三回にわたるバスツアーの報告をいただきました。そのあとの休憩時間では、巨棕池周辺の模型を用いた水理実験も行われました。休憩後は15時40分からグリーンインフラを生かした流域治水についての討論が行われました。前半の国土交通省近畿地方整備局河川環境課の方の話や近畿における干拓地と遊水地探訪バスツアー報告の内容を踏まえ、今回

の近畿河川フォーラム兼淀川討論会のテーマである「グリーンインフラを活かした流域治水について考える」ということを軸に参加者の皆様からご発言いただきました。16時55分に日本水防災普及センター理事長澤井健二様より閉会挨拶をもって今回のプログラムは終了しました。

その後は17時30分から摂南大学3号館のラーニングコモنزで懇親会が行われました。参加者は大人10名と摂南大学石田ゼミの学生が12名参加し、軽食を食べながらフォーラム・討論会の話に盛り上がっていました。

(谷口茜)



会場の様子

お知らせ

いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム

一昨年の愛知、昨年の大阪に続いて、今年は2月22日に東京フォーラムが国連大学ウ・タントホールで開催されました。

そして、来たる5月6日(火・休)、大阪・関西万博会場のテーマウィークスタジオで、国際フォーラムが開催されます。10:00~12:00が「自然遺産」セッション、13:20~15:20が「水と流域」セッション、16:40~18:40が「歴史文化首都」セッションで、20:00~20:20に総括セッションが持たれます。また、同日、会場内のジュニアSDGsキャンパス(サステナドーム)で、午前10時から午後4時頃まで、「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」のワークショップを開催し、京の川の恵みを活かす会から「京の川となにわの海をつなぐいきものたち」、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会から「ヨシの働きを学びながらヨシ笛を作ろう」というセッションを受け持ちます。

いずれのセッションも入場には事前予約が必要となっていますが、万博においての際には5月6日のこれらの企画にご注目下さい。(澤井健二)

イベント案内

淀川まるごと体験会 春

日時：2025年4月27日(日) 10時~12時頃

場所：淀川河川公園園点野草地区・ワンド周辺

内容：クラフト体験や堤防決壊モデル実験、浸水歩行体験、防災啓発コーナー、パネル展示コーナーなど

参加費：無料

主催：淀川まるごと体験会 2025 実行委員会

問い合わせ：河川レンジャーアドバイザー

玉井 090 - 2100 - 9276

大川クリーン活動&川で学び・つながる

日時：2025年4月29日(火・祝) 10時~14時頃

場所：大阪ふれあいの水辺(源八橋周辺)

内容：清掃活動&水辺の生き物観察、Eボート乗船

参加費：無料

主催：おお川水辺クラブ、淀川愛好会

連絡先：淀川愛好会事務局

大川散策と蕪村句碑探訪

日時：2025年6月1日(日) 13時~15時

集合場所：川の駅はちけんや

内容：天満橋から淀川大堰開門まで大川沿いを散策しつつ、淀川神社の蕪村像、蕪村公園・淀川堤防上の句碑などを探訪

主催：水辺に学ぶネットワーク・日本水防災普及センター ほか

参加費：無料

申込：淀川愛好会事務局まで

第7回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏

シンポジウム in 大阪

日時：2025年6月29日(日) 12:30~16:40

場所：エル・おおさか 606号室(大阪府立労働センター)

テーマ：流域圏の恵みと暮らし

プログラム：12:30~13:30 ポスターセッション

13:30~基調講演 14:30~話題提供 15:20~総合討論

主催：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会

共催：摂南大学

協力：学校法人常翔学園

参加費：無料

〈 学生の窓 29 〉

大学生から大学院生へ

原之村 慧文

私はこの3月で4年間の大学生活が終了します。学業では何とか卒業単位数を取り、卒業を迎えることができました。終わってみれば、あっという間に時間が過ぎ、とても短く感じました。しかし、私は大学院生になるので、あと2年は摂南大学でさらに知識を身に付けていきたいと思います。

この1年間は卒業研究に追われながら、様々な活動に参加し、時間がどれだけあっても足りず、とても苦労しました。「洪水時における淀川点野地区の新設ワンド群の流れ・河床変動特性の検討」について研究を行いました。研究を進めるたびに壁にぶつかり、前に進めないこともありましたが、先生方に意見や助言をいただき、研究を進めることができました。終始ご指導いただいた石田先生や大阪工業大学の小川准教授、熊本大学の張教授には深く感謝しております。まだまだこれからの研究なので大学院生の2年間でさらに研究を深めていこうと思います。

卒論発表の後にも陸水学会や淀川研究発表会などの発表があり、春休みに入っても休めない日が続き、大変でした。

現在は、ゼミ室の大掃除を行い、新4回生達を迎える準備をしています。2025年度はゼミ生が多くなるので、全員が座れるための座席を準備している最中です。石田先生は「4回生が一番忙しい」とおっしゃっていましたが、それを4回生の最後の月で実感したように感じます。

院生生活では大学生活の反省を活かしながら専門的な知識を深め、将来的に社会で役に立てればと思います。

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ4回生)

会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしています。ご入会を希望される方は、淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も、随時募集しています。

会員の方は、今年度の年会費3000円(学生1500円)を納入して下さい。

会費は事務局にお届け下さるようお願いいたします。

計報

淀川愛好会で会計を務めていただいていた摂南大学理工学部都市環境工学科准教授の佐藤大作先生におかれましては、2025年2月28日(金)にご逝去されました(行年44歳)。ここに哀悼の意を表し、謹んでお知らせいたします。

書籍紹介

風の谷のナウシカ (1～7巻)

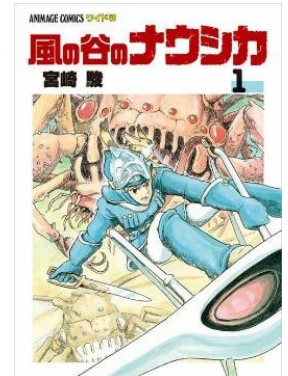
著者：宮崎駿

発行：株式会社徳間書店

発行年：1995年1月15日

セット定価：本体3,130円＋税

1984年に公開された映画『風の谷のナウシカ』。今となっても、ときおり地上波放送が行われる人気の高い作品です。戦争による科学文明の崩壊後、「腐海」という異形の生態系に覆われた終末世界を舞台に、人と自然の歩むべき道を求める少女ナウシカの姿が描かれています。原作のアニメージュ・コミックス・ワイド版にて、映画版では描かれなかった謎や物語の結末が待ち受けています。たとえどんなことが起ころうと、自分や大切な人が自由に明日を生きるために奔走する少女ナウシカの姿に皆さんも心打たれることと思います。(谷口茜)



編集後記

編集長 岡崎善久

都市化された社会は、ものごとを安全第一に考え、子どもたちはあたりまえのように、経験も冒険も実体験することもなく、社会から規制されて「川遊び」は自粛されていきます。規制や看板などが本当に必要だろうか。このようなことは、子どもたちの視点で考えていないのではと、竹井隆英氏の「社会人の窓」を読んで気づかされます。

そして「風の谷のナウシカ」は、マンガ作家である宮崎駿氏の思い・真相がぎっしり詰まっているのが、アニメ映画ではなく、原作マンガ版7巻です。書籍紹介された「風の谷のナウシカ」のマンガ版は是非、読んで欲しい本です。

(岡崎善久建築設計事務所)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125

HP： <https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/>

E-mail： ishida@civ.setsunan.ac.jp